

令和7年度 うべ女性活躍応援ネットワーク(第1回会議) 会議録

〔日 時〕 令和8年2月13日(金) 14:00~15:30

〔場 所〕 宇部市役所 市民交流棟 会議室C

〔出 席〕 委員11名 藤井、中村、上田、原、松本(誠)、今田、角光、篠田(代理:松本隆)
岡村、林、床本

オブザーバー1名 福島

事務局3名 上田(次長)、半田(課長)、木原(主務主任)

〔欠 席〕 委員7名 真宅、岩本、齋藤、前村、大北、地主、吉武

◆開会挨拶(市民環境部長)

◆議 題(会長進行)

○事務局から資料に基づき説明。主な意見等は以下のとおり。

(1) 第4次宇部市男女共同参画基本計画の進捗について

(会 長) ポータルサイトを見たが、文字が並んでいるだけで、情報が伝わりにくい。掲載記事は増えているが、最初に作ったときとあまり変わっていないのではないか。あまり見ようという気にはならない。内容が広がっていない気がする。

(事務局) 主な更新内容は、学生が女活企業を訪問して作成した記事や、育児休業を取った男性従業員のアンケートなど。

(会 長) 男性の育児休業について、各委員の職場ではどのくらいの期間取得しているか。

(委 員) 直近の例では、3か月間取得した。

(会 長) 市の男性職員の取得期間はどうか。

(委 員) 6か月間取得している職員もいる。

(事務局) 市の男性職員の取得率は100%である。

(会 長) 男性が育児休業を取るには、仕事に対する不安がある。周りのサポートはどうか。企業によっては、男性社員が育児休業を取ると、周りの社員に負担がかかるため、給料を上乗せして支給するところもある。

(委 員) 市では、女性が育児休業を取得する際は、代替の臨時職員を雇い、人員体制を整えている。光市のある会社では、男性が育休を取った際に、その上司、同僚、部下に手当を支給する就業規則を作ったと報道されていた。また宇部市では、従業員300人以下の認証企業について育児休業期間に応じて助成金を出している。会社の方にも助成金が出るが、特定の企業からの申請がある。それは、企業側が情報を知らないからなのか、それとも助成金が申請しづらいからなのか、教えていただくと、今後の制度の見直しにつながる。

(委 員) 初めの2、3か月は、育児休業関連の給付金支給が遅い。宇部市の助成金が早く支給されるものだと、大変助かると思う。市の助成金は、あまり知られていないように思う。若

い人は、割とサイトなどを検索してみる方だと思うが、それでもまだ市の助成金の情報にたどり着いていないように感じる。若い人は広報も見ないと思う。例えば産婦人科等でポスターを貼ってみてはどうか。

(会 長) 助成金はなるべく有効に使いたい。自分の会社で使える助成金は使っていこうと思っている。

(会 長) 女性従業員の育児休業は長く、昔はその間、派遣社員を雇用することがよくあったが、育児休業が終わった後、派遣社員の雇用の確保はどうされているか、他の企業に教えていただきたい。女性従業員が育児休業を取った際に新たに雇用等していないため、残った従業員に負担がかかっている。かといって1年だけ派遣社員を雇うのもどうかと思う。よい解決方法はないか。残された社員だけでやっていくのか、1年だけ雇用するのか。市役所はどうか。

(委 員) 市では臨時職員を雇用している。対象職員の育児休業期間が終わったら任期満了となる。

(委 員) 人員を補充せず、残された職員だけでやっている。

(会 長) 人手不足なので、人員の補充は難しい。復帰してもらうのが前提。本人も復帰に向けて焦っているが子どもの預け先などがなく、難しいときもある。

(委 員) リモートワークを取り入れてはどうか。

(会 長) セキュリティの面で難しい。

(委 員) 計画の数値目標で認証企業に限ったものがあるが、底上げするには、認証企業の数を増やさないといけない。その取組は何かしているか。

(事務局) 年度当初に周知するため、産業経済部から企業へパンフレットを配付してもらっている。認証要件のハードルはそこまで高くないので、周知に力を入れる。

(委 員) 4月から常用労働者数101人以上の企業に対し、「女性管理職比率」及び「男女間賃金差異」の公表が義務化されるので、その周知と合わせて認証企業に呼び掛けていく必要がある。

(委 員) 資料の「第4次宇部市男女共同参画基本計画の進捗状況」だが、赤字で囲んである事業のみ数値が載っているが、全体の数値はないのか。

(事務局) 今日の会議では、「女性の職業生活における活躍の推進」関連事業のみとしている。

(委 員) 男性の家事育児促進事業では、弊学(宇部フロンティア大学)の看護学部の授業で「育児カードゲーム」を実施させていただいた。学生がとてもいきいきと参加し、喜んでいった。貴重な機会をいただいたと感謝している。他の大学での実施もよいと思う。

(2) 第5次宇部市男女共同参画基本計画の策定について

(委 員) 市民アンケートの項目が多い。もう少し項目数を減らすと回収率が上がると思う。

(会 長) 広報と一緒に配るのはどうか。人を特定して配るのはどうか。

(事務局) 回答していただく際は、名前は求めない。そういった方法も検討してみる。

(委員) アンケートの目的は、「どこが手薄で、どこに支援を届けたいか」を探ることだと思う。「お子さんがいますか。」という設問があるが、子どもの年齢によってすごく変わってくるので、年齢をそのまま入力してもよいのではと思う。介護のために働きづらいということもあるので、家族の介護の必要性について設問があってもよいのではと思う。

(委員) 回答率が低いということだが、興味がある人は答えてくれると思う。広報に二次元コードを載せたり、図書館などにアンケート用紙を設置したりするとよい。

(委員) アンケートの「ポータルサイトを知っていますか。」という設問のそばに、そのサイトにつながる二次元コードを貼り付けてはどうか。この機会に見てもらったらよいと思う。

(オザバー) 「ポータルサイトを知っていますか。」という設問について、「知っていたが、利用したことがない」や「知らない」と回答した場合、その理由を深掘りしてもよいと思う。また、市民のニーズを聞くような設問でもよいと思う。

(委員) 以前は、女性が夫や家庭に遠慮しながら、時間を見つけて活動をしていたが、今では夫が妻を手伝っており、男女共同参画が進んでいると感じる。

(会長) 第5次計画の基本的な考えは「男女共同参画」なのか、「ジェンダー平等」なのか、考えていく必要がある。時代の変化がある中でこのまま「男女共同参画」を掲げていくのか、基本的な考えをある程度、統一した方がよいと思う。

(事務局) ご指摘のとおり、まだ「男女共同参画」でいくのか、それとも「ジェンダー平等」で進めていくのか、検討していく必要があると感じた。

(委員) アンケートの「困難な問題を抱える女性への支援について」の設問は、「男女共同参画」という言葉から、「なぜ女性だけに焦点を当てるのか」と疑問に思う。女性に固執しすぎていると感じる。

(事務局) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」ができたので、この設問を取り入れた。

(会長) 若い女性の県外流出が問題になっている。仕事や結婚の選択で自由を求めて県外に出たいのか、親や周りに制約されず活躍できる場を求めているのではないかと思うが、学校の状況はどうか。

(委員) 大都会に行きたいわけではなく、ちょっと県外に出てみたいという学生が多い。山口県がものすごく嫌なわけではなく、「今出ておかないと出られないかもしれない」といった感じ。男子学生の方が「親元にいたいから地元を離れない」という子が多いように感じる。

(委員) 最近の若い子は、海外勤務を嫌がる。地元志向が強いように感じる。

(会長) 採用の際、親が心配だからと転勤を嫌がり、地元を離れたくない男子学生がいる。昔のように「とりあえず東京に出てみようか」という若い人が少なくなったと感じる。女性の方が親に束縛されるのが嫌なのか、積極的に「ちょっと出てみようか」と思っている。山口の学生が福岡の就職フェアに行くので、採用する企業側も福岡まで行っている。女性は、一旦県外に出るとなかなか帰ってこない。

(委員) 今、特に若い人にとっては、「男女」という考え方がなくなっている。ジェンダーレ

スと言われている。若い世代にもこの会議に委員として入ってもらえたら、面白い意見が出ると思う。学生や若者の生の声を聞いて政策に反映させていくとよいと思う。

(会 長) 男女共同参画センターが機能移転し、市役所へ集約されるということだが、今後も引き続き、名前を残してほしい。時代遅れと言われるかもしれないが、そういったことも必要だと思う。